

現在の景気：県内景気は、持ち直しの動きが続いている。業種別にみると、製造業では、半導体不足などの供給制約やコスト高の影響もみられるが、総じてみれば世界貿易回復などに支えられた改善基調を維持している。非製造業では、対面サービス業種（外食・娯楽・宿泊など）において、感染者数の減少に伴って行動制限が緩和され、持ち直しの動きがみられる。これまでの県内景気の牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、などに大きな変化はない。

3か月程度の見通し：新たな変異株の台頭の影響が懸念されるが、人流の回復や消費マインドの改善により、対面サービス業種の業況が徐々に持ち直すことが期待される。製造業では改善基調が維持される見込みであり、全体として回復基調を続ける。対面サービス業種の持ち直しペースは、変異株を含めた感染状況などに大きく依存する。

個人消費：①上向き。②10月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比1.6%減と5か月連続で前年を下回った（前々年比では4.0%増）。緊急事態宣言の解除により来店客数が回復したほか、気温の低下で秋冬商材に動きがみられ、9月（同9.2%減）に比べマイナス幅が縮小した。11月も回復が続いた模様。10月の自動車登録台数は同30.1%減と、4か月連続で前年を下回った（前々年比は16.8%減）。半導体不足の長期化による減産などが影響し、一般乗用車（前年同月比28.8%減）、軽乗用車（同31.4%減）ともに前年を下回った。

住宅建築：①増加基調。②10月の新設住宅着工戸数は、前年同月比1.4%増加し、2か月ぶりに前年を上回った。貸家（前年同月比11.0%減）、分譲（同2.9%減）は減少したが、持家（同20.2%増）は増加した。

設備投資：①増加。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、10月の工事床面積（年度累計）は前年度比32.5%増加し、工事予定額も同20.7%増加した。千葉経済センターによる県内企業214社アンケート調査（9月実施）では、21年度の設備投資計画は20年度実績額を4.0%上回り、期初計画から7.3%上方修正された。

公共工事：①減少。②10月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同月比11.1%減少した。県（同3.7%増）は増加したが、独立行政法人（同62.1%減）、市町村（同4.0%減）、国（同0.6%減）が減少した。

輸出：①増加。②10月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比25.0%増と8か月連続で増加した（前々年比は28.4%増）。成田空港では、半導体等製造装置（前年同月比11.5%増）や科学光学機器（同26.6%増）などの増加により、同21.8%増と8か月連続で前年を上回った。千葉港は、石油製品（同579.1%増）や鉄鋼（同68.1%増）などの増加により、同67.2%増と6か月連続で前年を上回った。木更津港は、鉄鋼（同139.6%増）や自動車（同89.9%増）などの増加により、同97.0%増と7か月連続で前年を上回った。

生産活動：①増加基調。②9月の県鉱工業生産指数（季調済）は、96.2（前月比3.0%上昇）と3か月ぶりに上昇した。主力の化学工業（同10.8%上昇）や鉄鋼業（同9.1%上昇）などの生産が増えた。

観光：①持ち直し方向。②感染が落ち着いていることから、千葉県は、独自の宿泊優遇キャンペーン「ディスカバー千葉」の利用制限を緩和。県外在住者の利用を可能としたほか、利用期限も延長した（12/15日→1/31日）。

雇用情勢：①横ばい。②10月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.01ポイント低下の0.84倍と、3か月連続で前月を下回った。有効求職者数（同1.2%増）の増加が有効求人数（同0.2%増）の増加を上回った。

【トピックス】

- ・ 北総鉄道は運賃を22年10月から全体で15.4%値下げするため国交省に変更届け出を行った（19日）。運賃の値下げ幅は最大100円で、初乗りは210円から190円となる。
- ・ 千葉県は、県内企業等におけるSDGs推進の機運を醸成と、具体的な取組を後押しするため、「ちばSDGsパートナー登録制度」を創設した（25日）。
- ・ 千葉県は、新型コロナウイルス感染拡大に備え、県内2か所目となる「臨時医療施設」を「ちばぎん研修センター」（千葉市）に設置することを決定した（25日）。